

“人と人”、“人と自然”との絆で、子どもたちの未来を紡ぐ エコタウン所沢

第39号



環境会報

所沢市環境推進員連絡協議会

2050ゼロカーボンシティ所沢の実現に向けて

マチごとエコタウン推進課

地球は「気候危機」に直面し、様々な影響が顕在化しています。



産業革命以降、二酸化炭素を中心とした温室効果ガスによる影響で気温の上昇が続いており、二酸化炭素排出量の削減などの対策を講じないと、平均気温が2060年に最大3.0℃、2100年に最大5.7℃気温が上昇し、地球に重大な影響を及ぼすと言われていますが、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることで高い確率で気温上昇を1.5℃以下に抑えられることがわかっています。

所沢市は、未来の子どもたちに持続可能な地域社会を残すため、2050年までに市域の二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。

ゼロカーボンシティの実現は簡単なことではなく、市民や事業者など全ての皆様の協力が必要です。

ご家庭で、太陽光発電など再エネを利用する、電気を環境負荷の少ない電気に変える、照明をLEDに変えるなど、一人一人が環境配慮行動を意識して実践することがゼロカーボンへの一歩となります。ご協力をお願いします。



「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」について

資源循環推進課

現在、プラスチックごみによる海洋汚染や温室効果ガスの排出による気候変動、海外での廃棄物輸入規制など、プラスチックごみの廃棄にあたっては様々な問題が生じており、国内ではプラスチック資源の循環に対する意識が高まっています。

こうした状況を受け、政府では、令和元年5月に「プラスチック資源循環戦略」を策定し、3R（発生抑制、再使用、再資源化）+Renewable（再生可能な資源への代替）の基本原則を掲げ、令和3年6月には、あらゆる主体におけるプラスチックの資源循環の取組を促進するための措置を盛り込んだ「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」（プラスチック資源循環法）が成立しました。この法律は、令和4年4月1日より施行されることとなっています。

プラスチック資源循環法では、プラスチックの製品設計を行う事業者や、プラスチック製品を使用する消費者、廃棄物を処理する自治体や民間事業者に至るまで、あらゆる主体がプラスチックの資源循環の取組を促進することを目的としています。

※ワンウェイプラスチックの排出抑制

政府では、スプーン、フォーク、テーブルナイフ、マドラー、飲料用ストロー、ヘアブラシ、くし、かみそり、シャワーキャップ、歯ブラシ、衣料用ハンガー、衣料用カバーの12品目を特定プラスチック使用製品として定め、2030年までに累積で25%排出抑制するという目標を掲げています。

所沢市では、平成10年度からプラスチックの分別収集を開始し、平成21年6月からは単一素材プラスチックの拠点回収を開始するなど、市民の皆様のご協力をいただきながらプラスチック類の資源化を進めております。また、現在はマイボトルの推進や、使い捨てプラスチックの代替品としてリユース食器、竹製・紙製容器及びバイオマスプラスチック容器などに転換する事業者に対して補助金を交付するなどの取組も実施しています。

今後も、さらなるプラスチック資源の循環にかかる取組を進める必要がありますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



2年ぶりに視察研修を実施

山口地区環境推進員 新居亨一

山口地区環境推進員協議会は昨年(2022年)の12月14日(火)に2年ぶりの視察研修を実施、コロナ禍により人数を制限したため役員と理事を中心に16名が参加しました。

研修先は、寄居町にある埼玉県環境整備センターと埼玉県立川の博物館です。帰路、東所沢に新しくできた所沢市観光情報・物産館YOT-TOKOにも立ち寄りしました。

埼玉県環境整備センターは現在所沢市が一般廃棄物の最終処分をお願いしている処分場の一つです。初めに施設概要の説明を受けた後、廃棄物の最終処分場の跡地に作られた広大な緑地公園やメガソーラーと現在供用中の13号埋立地(5.7万平米)を見学しました。

環境保全には十分な対策がなされていました。受け入れる廃棄物には細かな制限が課せられ、また、廃棄物が露出しないよう毎日覆土を行っていました。底面と法面に敷かれた遮水シートは5層構造になっており、底面は漏水を検知で

きます。

私たちが将来にわたり出すごみの量は無限ですが埋立地は有限、この処分場も地元との協定により埋め立て可能な期間は令和13年度までとのことでした。ごみを減らそうという一人一人の日々の努力が必要です。

同センター内には資源循環工場もあり、今回は多種類の廃棄物を受け入れリサイクルする(株)エコ計画と廃蛍光管のリサイクルを行う(株)ウム・ベルト・ジャパンの2社を見学しました。

川の博物館では、荒川と人々の暮らしの関わりを紹介する常設展示を見学し、アドベンチャーシアターで荒川の源流から海へ流れ出るまでの旅を体験しました。

私たちはこれまでも数多くの廃棄物処理場を見学してきましたが、今回は特に多くの参加者から環境整備センターはとても綺麗で悪臭も感じなかったとの感想が出ました。



令和3年度我が家のごみ減量アイデアコンテスト

資源循環推進課

資源循環推進課では、ごみ減量について市民の皆様に関心を持っていただくため、“誰もが気軽に取り組むことができる家庭のごみ減量”をテーマとした「我が家のごみ減量アイデアコンテスト」を開催しました。

アイデアの募集を令和3年10月1日から11月30日までの約2ヵ月間行ったところ、合計で113件のご応募をいただくことができました。

選考会では、最優秀賞1件、優秀賞2件が決定し、令和4年1月17日には所沢市役所において表彰式が行われました。最優秀賞を受賞した方には賞状と電気式生ごみ処理機を、優秀賞を受賞した方には賞状と生ごみカラットを贈呈いたしました。

最優秀賞は、大竹遼真さんの「ハーフトィッシュ」。ティッシュ箱と中身のティッシュペーパーを半分に切ることで、ティッシュの消費量を半分にすることができるアイデアです。簡単にできる実現性の高いアイデアとして最優秀賞に決定しました。

優秀賞の1人目は、辻康治さんの「プランターの土再生 作戦!」。生ゴミや米ぬかを古くなった土と

共に攪拌(かくはん)し、土を再生するアイデアです。生ごみや米ぬかといった廃棄物を活用し、家庭での処分が難しい古くなった土を再生する、オリジナルのある内容でした。

優秀賞の2人目は、西澤和記さんの「WaW recipe (What a waste recipe)」。料理で利用した肉や野菜などの茹で汁を、翌日以降の料理でだしパックや液体出汁の代わりに使用するアイデアです。茹で汁を捨てずに利用することで、だしパックや液体出汁の消費量を減らせる減量効果の高い内容でした。

市では、家庭から出る1人1日あたりのごみ排出量を令和11年度までに654g以下に抑制することを目標に掲げております(令和2年度は673g)。今後もより一層の発生抑制や適正処理に取り組んでまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



我が家のごみ減量アイデアコンテスト 表彰式
前列：受賞者3名と市長 後列：審査員2名

段ボールによる生ごみ処理機について

資源循環推進課

所沢市では、地球温暖化防止施策の一つとして、ごみの減量・資源化など循環型社会の構築のため、多くの活動を行っております。

その中で、一番身近である家庭から排出される燃やせるごみの約4割は生ごみと言われており、その堆肥化は重要な活動の一つとして捉え、自家処理の推進を図っております。

生ごみの減量・資源化をすることは、ごみの回収コストや燃焼エネルギーの削減に大きく寄与しています。

ここでは、自家処理を手軽に行える「段ボールコンポスト」についてご紹介いたします。

段ボール箱に土壌改良剤（腐葉土）を入れ、好気性（酸素を必要とする）微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥を作るものです。

段ボールは通気性がよく、生ごみの水分を逃がしたり、発酵に必要な空気を通すのに適しており、臭いも少なく、場所も取らないので集合住宅のベランダでも取り組むことができる自家処理方法です。

用意する物は、段ボール、腐葉土のほか、米ぬかで、場合によっては虫よけネットなどを用います。

段ボールの6割くらいの高さまで腐葉土と米ぬかをいれ、一日につき500gから800g程度で、水切りと細かくした生ごみを入れ、良くかき混ぜて酸素を生き渡せるようにし、風通しと日当たりの良い場所に置きます。

微生物が順調に分解していると、段ボールの

中身が20℃から40℃くらいまで温度が上がります。微生物による生ごみの分解を促進させますが、すぐに分解は始まりず、2週間前後から徐々に温度が上がっていきます。

特に分解されやすいものとしては、野菜くずや白米、使用済み油、コーヒーかす、お茶殻と言われています。

季節によっては、ハエ等が段ボール箱に入らないように、虫よけネットなどの対策を講じ、土が乾燥しているようであれば、水で濡らすかスイカなど水分の多い食物を入れるようにします。

段ボールコンポスト1基につき、生ごみを投入できる期間は、3ヶ月から6ヶ月程度で基材が黒っぽく固まり、乾燥させたのち、土と混ぜ合わせ堆肥として使用できるようになります。

「段ボールコンポスト」は、環境への負荷を考慮し電力を使用せずに簡単に使用できますので、生ごみの減量・資源化のご協力をお願いいたします。



生ごみを投入し、良くかき混ぜる

ご家庭向けの3つのプラン

ところざわ未来電力

再生可能エネルギーの普及を目的とし、2018年5月、所沢市、JFEエンジニアリング株式会社、飯能信用金庫、所沢商工会議所が出資し、「株式会社ところざわ未来電力」を設立しました。

現在、メガソーラーやフロートソーラーをはじめとした所沢市内の太陽光や所沢市東部クリーンセンターなどで発電された所沢市産の環境負荷の少ない電力を、市役所・まちづくりセンターなどの公共施設で利用するとともに、市内の事業者様にも再生可能エネルギーを中心とした電力を供給しております。

2021年1月からは、ご家庭の方や低圧電力をご利用の事業者様にも再生可能エネルギーを中心とする、環境負荷の少ない電力をご利用いただけるよう販売を開始しました。

地域の大手電力会社標準価格の3%割引、さらに、次世代を担う子育て世帯を応援する「子育て

サポートプラス」や、西武ライオンズの支援にもつながる「ライオンズでんき」といったメニューもございます。いずれも専用のWEBサイトから簡単にお申し込みが可能です。

普段何気なく利用している電気ですが、未来の地球環境を考え、地域で生み出される再生可能エネルギーの利用を検討してみませんか。

「ところざわ未来電力」は、再生可能エネルギーの普及を通じて、地域のくらしと地球の未来を支えていきます。

子どもたちの未来のために！ 選ぼう！「トコロでんき」！

ところざわ未来電力 3つの特徴

POINT 1 環境に配慮した電力プラン

POINT 2 所沢市出資の電力会社

POINT 3 電気代もお得に！

子育てサポート プラス
ところざわ未来電力は、子育て中のご家庭を応援しています

● 中学校卒業までのお子さまとご家族のご家庭への子育てサポートプラン！
加入から3年間、毎年2ヶ月分の基本料金が無料に！

詳しくはこちらから

ところざわ未来電力 0800-170-6989(フリー) 所沢市本町二丁目21番4号(所沢市上下水道局内舎内)
受付時間 9:00~18:00 年末年始を除く <https://tokorozawa-mirai.co.jp/>

狂犬病予防注射をお忘れなく

生活環境課

狂犬病予防注射のお知らせを、3月上旬に飼主の方へ郵送しました。内容を確認し、ご都合に合わせて注射を受けてください。方法は2通りあります。

①集合注射

4月に市内42会場で受けられます。費用は1頭3,500円です。

(新規登録する犬の場合は6,500円です)

②個別注射

動物病院で注射を受けられます。市と協定を締結している病院なら、手続きが簡単になります。なお、費用は動物病院ごとに異なります。

※集合注射の会場・日程、協定を締結している病院の一覧は、市のホームページ（「狂犬病予防注射は必ず受けましょう」）や生活環境課でご確認ください。

※海外に犬を連れていく予定がある場合は、注射前に必ず申し出てください。

令和4年度「環境美化の日」について

生活環境課

春の「環境美化の日」は、令和4年5月29日（日曜日）

秋の「環境美化の日」は、令和4年11月6日（日曜日）に行います。

ただし、参加・不参加の判断は各自治会町内会様に委ねます。

新型コロナウイルス感染防止のため、密を避けマスクの着用をお願いします。

また、ごみは直接手で触らぬようにして下さい。

下記は令和3年秋の環境美化の日のごみの回収量と参加人数です。

燃やせるごみ	21.20トン
破碎ごみ類	2.80トン
びん・かん	0.17トン
粗大ごみ	1.15トン
総回収量	25.32トン
自転車台数	19台
参加人数（合計）	15,947人
大人	14,171人
中学生	233人
子供	1,543人

愛犬のためにもマナーを守りましょう

1人の飼主のマナー違反によって、そのワンちゃんや他の愛犬家にも厳しい目が向けられます。自分のことだけではなく、ご近所のことと考えて、誰もが気持ちよく過ごすために、マナーを再確認しましょう。

- ・散歩中のふんは必ず持ち帰る。
(できるだけ散歩の前に自宅でトイレをさせる習慣をつけましょう)
- ・リードは短く持つ。
- ・放し飼いはしない。
- ・無駄吠えしないようにしつけと運動をする。

編 集 後 記

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、環境推進員はじめ市民の皆様は環境活動における新型コロナウイルス感染症予防について、彩の国「新しい生活様式」における地域清掃活動10のポイントのガイドラインに沿って日常活動している。路上に散乱された無数のマスク、そのマスクが海に流れ、海亀の排泄物からマスクが発見された。ロシア文字の入った注射針が日本海に面した海岸に漂着。SDGsの推進と共に、人間が健康的に暮らしていけるよう、海洋プラスチック（廃プラ）・温暖化ガス等の環境破壊問題は喫緊に処理されるべき問題です。所沢市が「マチごとプラスチックごみ削減宣言」に続いて、市政施行70周年記念式典の2020年11月3日に、「ゼロカーボンシティ」を宣言し、2050年までに市域のCO₂排出量実質ゼロを目指して取組み中。分別の徹底・資源化の推進等身近なところから市民の皆様の理解・協力が必要です。(M)

編集委員（◎印は委員長）

◎宮高 隆（並木）、久下 紀世（新所沢）、新居 亨一（山口）

事務局：所沢市環境クリーン部生活環境課

☎04-2998-9370

所沢市のホームページ

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

『トップページ』⇒『くらし・手続き』⇒『環境・みどり』⇒『生活環境』⇒『環境推進員連絡協議会』についてを選択してアクセスしてください。